



万松寺

はくび通信

第 2067号
2026



お不動さまの縁日護摩 願いを届け、成就を祈る

毎月28日は、不動明王の縁日として知られており、万松寺ではこの日に合わせて、縁日護摩を開催しております。

当寺の護摩祈祷は、古来より伝わる護摩修法の作法にのっとり行われます。またご祈祷は、織田信長が不動明王のご加護により難を逃れたとされる「身代わり餅」の逸話にちなみ、餅を供物として奉納するところから始まります。

■護摩修法の流れ

護摩修法は、仏の智慧の火によって私たちの煩惱を焼き清め、願いの成就を祈る僧侶の大切な修行のひとつです。

はじめに僧侶は、すべての人の幸せを願う菩薩の心を観じて入堂し、不動明王へ礼拝します。ついで自らの身・口・意を清め「洒水作法」という水の作法によってお堂全体を清めます。

次に、ご本尊や諸仏が壇上に現れるよう祈り、堂内にも邪念が入らないように結界作法を行い、仏様をお迎えする準備を整えます。

それから、護摩壇の火に火天と不動明王をお招きし、百八支の護摩木を投入し、参拝者の煩惱滅尽を祈念します。ここまですが参拝者の願いを届ける前の流れです。

そのあと、導師は参拝者の護摩木を不動明王の護摩炉に投入し諸

願成就を祈祷し、錫杖加持師は錫杖加持をして魔を払いながら後押し祈祷をおこないます。
最後に、不動明王をお送りする作法をもって、縁日護摩の儀式は終了となります。

■僧侶も人間、日々鍛錬

私たちは、ご来寺いただいた皆さまが来て良かったと感じていただけのように、ミツシヨンを掲げ職員一同で取り組んでいます。

こと僧侶につきましては、ご祈祷を受けた方の願いが成就するよう、自身を清めて祈祷に臨むことを大切に、日々の作務などを行っています。とはいえ、たとえ僧侶であっても人である以上、時に思わぬ感情が生まれて、日常生活の中で心が穢れることもあります。

そんなときは護身法で穢れを取り除き、以前はくび通信仏教の豆知識でお話した身・口・意の三業浄化の教えに従い、自らを清らかに整えてから、皆さまの祈願に向き合うよう、日々精進しております。

当寺の縁日護摩は、燃え盛る護摩壇の間近まで参拝者にお越しいただき、ご祈祷・錫杖加持を受けることができます。現在は、15時から19時からの二部制で行っております。予約不要で祈祷料は500円からですので、お気軽に祈祷を受けていただけます。

また、同日18時からは大須商店街連盟による「身代わり餅つき」も境内で行われ、つきたてのお餅が振る舞われます。ぜひ縁日にあわせてご来寺ください。

毎月28日 不動明王縁日護摩

護摩修法の作法にのっとり、不動明王の炎のそばでお加持が受けられます。

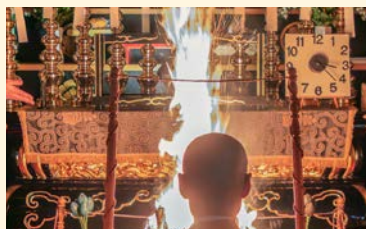
祈祷料(護摩木) 500円より各種

第一部 15時～16時半

第二部 19時～20時

予約不要

18時～ 身代わり餅つき 万松寺境内



ご予約は
電話 WEB
総合受処
にて承ります

災息安
無病交
除全
難身
除健
厄体

◆大般若 一万円
(御守 身代わり餅)
◆祈 祈 五千元
(木札 身代わり餅)

5月28日(木)
10時から15時

春期不動明王大祭

住職の小噺



小噺



万松寺の白雪稲荷

当寺のキャラクターの中でも「はくび」は、御守や絵馬、御朱印、ぬいぐるみ、最近ではオリジナルお土産にもその姿があしらわれ、世代を問わず多くの方に親しまれています。このはくびは、前回の小噺でもお話しした白雪稲荷に由来するキャラクターです。今回は、当時の白雪稲荷の歴史や逸話についてお話ししたいと思います。



千年の時を越え

信秀が名古屋城の南側に万松寺を建立したとき、万松寺には白雪稲荷は祀られていませんでした。名古屋城築城に伴い、現在の大須へ移転することとなったとき、信長の義弟・牧長清が城主をつとめ、後に廃城となった大須の小林城跡地に祀られていたものを譲り受け、万松寺の鎮守としました。この白雪稲荷は、大須の地に千年も前から棲んでいた白狐が「白雪様」として祀られるようになったのが起源とされ、古くからこの地を見守り続けてきた存在であると考えられています。

江戸時代の『尾張名所図会』

によれば、当時は境内北側、現在の三輪神社の南あたりに祀られていたことが記されています。また万松寺と所縁ある大道寺家の用人を務めた水野正信が記した『青窓紀聞』によると文政元年に社殿の修復と棟上げが行われ、祭礼は夜まで大いに賑わったと記されており、その賑わいは、当時の人々の篤い信仰を物語っているようです。



出典 国立国会図書館デジタルコレクション 尾張名所図会前編巻2 愛智郡

■ 伝え聞く逸話

白雪稲荷には心温まる逸話がいくつか残されています。三十八世伊藤寛一の記した『御縁起書(木版)』によると、万松寺が財政難に陥ったとき、白雪稲荷が御小女郎という美しい娘に化けて江戸吉原で働いたお金で財政難を脱したとされ、御小女郎が働いた吉原の楼主が、夢でその正体を知り、商売が繁盛したご加護への感謝として参詣に訪れたと書かれています。

この話は先にあげた尾張名所図会にも、同様の話と読み取れる説明書きが書かれています。そのほかに江戸時代に書かれた『名古屋見付随筆』の著者である万松寺門前の甘酒屋「三國一」の大口高根の話として、ある日現れた不思議な人物から裏の松に宿る白雪稲荷を敬えば繁盛すると教えられ、毎日祈ると、評判は高まり名古屋城下随一の店となったという「白狐の恩返し」が伝えられています。

大須商店街は、私の幼少期は映画館が立ち並び、成人期は電気街やサブカルチャー街、壮年期以降は、老若男女が集う日本一元気な商店街といわれるほど時代の荒波を上手く乗りこなしていると思います。それは、この地域の方々の暮らしに寄り添い、困難の中にある者に手を差し伸べる白雪稲荷のご加護がいまなお続いているからではないでしょうか。

大須へお越しの際には、各所に残る歴史に触れながら、ぜひ当寺にもお立ち寄りください。そこで静かに手を合わせるひとときが、心を整え、思いがけないご縁や導きをもたらしてくれるかもしれません。

大須へお越しの際には、各所に残る歴史に触れながら、ぜひ当寺にもお立ち寄りください。そこで静かに手を合わせるひとときが、心を整え、思いがけないご縁や導きをもたらしてくれるかもしれません。

万松寺住職

大藤 元裕

合掌

これからの行事

お盆行事

5/28 (木) 春期 不動明王大祭

28日の不動縁日の中でも縁の強い春と秋に、大祭として大般若会を行います。

8/19 (水) 旧暦七夕

願いを込めて奉納された短冊に、諸願成就の祈禱を行います。なお奉納いただく短冊は、6月下旬頃から授与の予定です。願いを書いた短冊は境内の笹竹に飾っていたとき、旧暦七夕当日に祈禱を行います。

7/11 (土)
8/10 (月)
11 (火祝)
12 (水) お盆 合同法要

8/12 (水)
15 (土) 迎え火 送り火

「迎え火」では、12日にご先祖様の精霊をお迎えします。「送り火」では、15日にお盆の間一緒に過ごしたご先祖様の精霊をお送りします。

8/24 (月) 施食会

ご先祖様と全ての精霊に、水の子を供え、甘露門を読経する追善供養を営みます。



行事・祈禱・供養のお問合せ・お申し込みは
052126210735
にて承ります。(年中無休)



仏教の豆知識

【四十九日と冥土の審判】

前回の仏教の豆知識で、日々の行いを意識するうえで大切な十悪・十善についてお話ししました。実はこの十悪・十善の行いは、私たちが生涯を閉じ、次に生まれ変わる世界を決める根拠となるとも言われています。

生前の行いがどのように審判されるか、また遺された人々の供養がどう影響するかについて、今回は諸説ある中から十三仏信仰に基づいた一説をお話しします。

■六道輪廻とは

お釈迦様は、すべての生きものは、天上・人間・修羅・畜生・餓鬼・地獄という六つの世界のいずれかで生きていてと説かれました。この六つの世界のことを仏教では「六道（ろくどう／りくどう）」といいます。また「輪廻」といって、それぞれの世界での生涯を終えると新たな世界へと生まれ変わることを繰り返すことを説かれました。

■審理・審議は七日ごと

人は亡くなると四十九日までの間、七日ごとに十人の王から審理・審判を受けるとされます。

初七日には秦広王が「殺生」の罪を問います。殺生とは、無意味に命を粗末にしたかどうかを問わ

れます。その後、三途の川の亡者が、罪の重さで三途の川をわたる場所へ案内します。

二七日の初江王は「盗み」の罪、三七日の宋帝王は「邪淫」の罪、四七日の五官王は「身口」の罪をそれぞれ審理します。盗みとは単に物を盗むことではなく、人の時間を無駄に使ったことなども含まれます。邪淫とはパートナー以外と道に外れた性関係を結ぶことです。身口とは暴力などの身体的な行為や悪口などの言動的な行為のことです。

そして五七日は、よく知られる閻魔王によって最初の審議が行われます。閻魔王は「浄玻璃（じょうはり）の鏡」に映し出される映像や「檀茶幢（だんだどう）」から報告される内容で生前の善悪を確認し、厳正な判断を下します。



しかし、ここで運命が完全に決まるわけはありません。六七日の変成王は「功德」を重んじ、生前の悪行があればたしなめ、善行があればさらに功德を積むように論じます。いよいよ七七（四十九日）に、泰山王がこれまでの審



理や審議と故人の悪行に対する反省の念などを鑑みて、次に生まれ変わる世界を決める「最終審議」を行うとされています。



■追善供養は意義がある

ここまでお話しした七日ごとの審理の時には、遺族が行った追善供養の功德が故人の善行として審理に影響を与えるとされています。近年、初七日と四十九日が忌明けまでの節目と思われがちですが、その他の七日も、ふと手を合わせるときの大切にしてください。その積み重ねこそが、見えない世界において確かな意味を持ち、故人が安らかな境地へ近づくための大切な支えとなることでしょう。

さらに、四十九日以降も百箇日、一周忌、三回忌、七回忌、十三回忌、三十三回忌と節目ごとに供養を行うことには大きな意味があります。特に三回忌までは、追加の審判の機会ともいわれ、平等王・都市王・五道転輪王といった諸王のはたらきの中で、故人の境遇がより善い世界へと転じる可能性があるといわれています。

三十三回忌まで故人に向き合う十三人の王は、それぞれ異なる仏さまが変化したものともいわれています。ですから供養は、単に亡き人を偲ぶということにとどまらず、私たち自身の生き方を照らし、自らの歩む道を整えることにもつながるのです。

Pick Up! 万松寺

令和8年 白雪稻荷新授与品のご案内

白雪稻荷御守

2月下旬頃より授与開始
商売繁盛
開運招福



はくび御朱印帳

5月上旬頃より授与開始
箔の輝きと
ぶつくり感が
愛らしい表紙



はくびみくじ

4月下旬頃より授与開始
豊かな表情が可愛い、
はくびのカプセルおみくじ



※WEB授与はございません。



大人の寺子屋

講師 万松寺住職 大藤 元裕

開催日 5月3日 6月7日
7月5日 8月2日

時間 10時半〜12時

参加費 300円(お抹茶・お菓子付き)
※6月より参加費は500円
となります。

万松寺の仏教講座

坐禅会 毎週日曜日 9時〜10時

写経会 毎月第2土曜日 16時〜17時半

写仏会 毎月第1・3土曜日 16時〜17時半

仏教勉強会 毎月第4土曜日 16時〜17時半
参加費 500円

お申し込み・お問合わせ

WEB 万松寺 学び舎

電話 052-1262-0735

この「はくび通信」ご持参にて
1回無料でご参加いただけます

※行事などにより、日時・会場の変更
や中止となる場合があります。

万松寺日記

信秀忌

■令和8年3月3日(火)

万松寺を建立した織田信秀(織田信長の父)の命日供養を営みました。他にも、信秀の十一男長益(有楽斎)を流祖とする武家茶道の有楽流宗家十七代家元 織田宗裕宗匠による献茶、信長幸若舞保存会による幸若舞の奉納が行われました。



災害物故者被災動物追悼法要と炊き出し訓練

■令和8年3月8日(日)

震災などの災害で亡くなった方々を悼み、復興・再生への祈りを込めて、追悼法要を営みました。また、万松寺職員による災害を想定した炊き出し訓練を行い、皆さまに「精進カレー」をお配りしました。



初午会

■令和8年3月21日(土)

旧暦初午の日に、白雪稲荷のご真前にて、五穀豊穰・商売繁盛の祈禱を行いました。

春彼岸合同法要

■令和8年3月22日(日)

23日(月)

彼岸(浄土)と此岸(現世)が近くなることされる彼岸の時期に、追善供養を営みました。

花まつり

■令和8年4月5日(日)

境内で、花御堂(はなみどう)の誕生仏に甘茶を灌ぐ花まつりを行いました。



降誕会

■令和8年4月8日(水)

お釈迦様の誕生を祝し、報恩感謝の法要を営みました。

開山忌

■令和8年4月22日(水)

織田信秀の叔父で、万松寺初代住職大雲永瑞大和尚の命日供養を営みました。



春姫忌

■令和8年4月23日(木)

初代尾張藩主正室春姫の命日供養を営みました。



三宗派合同朝課

日時 毎月8日
9時半～10時

場所 本堂

曹洞宗・真宗大谷派・真言宗の三宗派による朝勤行です。般若心経・正信偈・ご詠歌を僧侶と唱和します。



真宗大谷派 お朝事

日時 毎月16日
9時半～10時

場所 本堂

阿彌陀經でご焼香いただき、正信偈を唱和します。最後に蓮如上人の書かれた御文をいただきます。

どなた様もご予約なしで参加いただけます。 ※行事等の都合により変更となる場合がございます。